

インターバンクの声（2015 年 3 月 27 日）

対ユーロや豪ドルでの軟化、サウジアラビアによるイエメンへの軍事介入をきっかけにしたリスク回避の動き、そして何よりも相次ぐ市場予想を下回る経済指標の結果が基になっている米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ開始の後ずれ観測が一番の要因だと思われるが、ドル円が嫌な下落をし始めたのが昨日の東京時間の夕方だった。期近での重要なサポートポイントだった 119 円台前半や 118 円台に下落した心理的な影響もあって、そのままズルズルと 2 月 6 日の米雇用統計発表前の 117 円台に突入して行きそうにも感じられた。結果的には、その東京時間の夕方がドル円の底値。今朝になって見れば、何事もなかったような 119 円台前半だ。さすがに 118 円台後半への下落時点ではドルの押し目買いを躊躇ったようだったが、118 円台前半は値頃感が出たことや米週間失業保険申請件数の減少を好感し、意外にあっさりと短時間で 119 円台に回復させてきた。やや急激とも思える反発を見せていたユーロと豪ドルも高値から反落しており、週末になって相場も振出しに戻っているような状況だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。